



リリース ノート

PowerBuilder® 12.1

Copyright © 2010 by Sybase, Inc. All rights reserved.

本書は Sybase ソフトウェアの付属マニュアルであり、新しいマニュアルまたはテクニカル ノートで特に示されない限り、後続のリリースにも付属します。このマニュアルの内容は、予告なく変更されることがありますが、Sybase, Inc. およびその関連会社は内容の変更に関して一切の責任を負いません。このマニュアルに記載されているソフトウェアはライセンス契約に基づいて提供されるものであり、かかるライセンス契約で許されている場合を除き無断で使用しまたは複製することはできません。

本書に記載されている内容は、Sybase, Inc. およびその関連会社の書面による事前許可を得ずに、電子的、機械的、手作業、光学的、またはその他のいかなる手段によっても複製、転送、翻訳することはできません。

Sybase の 商 標 は Sybase の 商 標 ペ ー ジ の サ イ ト <http://www.sybase.com/detail?id=1011207> に記載されています。Sybase および記載されたマークは Sybase, Inc の商標です。® はアメリカ合衆国における登録商標を示します。

SAP およびその他の SAP 製品、またここに記載されているサービス名および各ロゴは、ドイツおよびその他の国における SAP AG の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java ベースのマークは、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

Unicode および Unicode のロゴは Unicode, Inc. の登録商標です。

本書で記載されている上記以外の社名および製品名は、関連各社の商標または登録商標の場合があります。

Use, duplication, or disclosure by the government is subject to the restrictions set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of DFARS 52.227-7013 for the DOD and as set forth in FAR 52.227-19(a)-(d) for civilian agencies.

本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更することがあります。また、本ソフトウェアおよび説明書を使用したことによる損害、または第三者からのいかなる請求についても、サイバース株式会社、その親会社である米国法人 Sybase, Inc. またはその関連会社は、一切の責任を負わないものとします。

目次

製品概要.....	5
インストールにおける注意事項.....	5
変更された機能.....	7
12.1 EBF で変更された機能.....	7
アセンブリの分割.....	8
.NET アセンブリ ターゲットの機能拡張.....	10
.NET イベントの利用.....	11
12.1 で変更された機能.....	12
ASE 15.5 サポート.....	14
SQL Anywhere 12.0 サポート.....	14
XAML エディタの機能拡張.....	14
サードパーティ コントロール サポート.....	14
プロジェクトの機能拡張.....	15
配列次元の機能拡張.....	16
WPF アプリケーションにおけるOLE コントロール サポート.....	17
WPF データウィンドウの RightToLeft 機能拡張.....	17
HasMinHeight プロパティ.....	18
FontHeight 関数.....	18
PrintOpen 関数の動作変更.....	19
Find 関数の機能拡張.....	19
既知の問題.....	20
データベースに関する既知の問題.....	20
WPF ウィンドウとメニュー ペインタに関する既知の問題.....	21
WPF データ ウィンドウに関する既知の問題.....	22
WPF スクリプトと XAML エディタに関する既知の問題.....	24
WPF コントロールに関する既知の問題.....	25
サードパーティおよびカスタム コントロールに関する既知の問題.....	26
WPF継承に関する既知の問題.....	28
.NET 言語機能拡張に関する既知の問題.....	29
WPF ランタイムに関する既知の問題.....	30
WPF デバッガに関する既知の問題.....	32
WCF クライアント プロキシに関する既知の問題.....	34
FlowDirection プロパティに関する既知の問題.....	35

移行に関する既知の問題.....	36
インストールに関する既知の問題.....	37
Web フォーム アプリケーションに関する既知の問題.....	39
アセンブリの分割に関する既知の問題.....	40
その他の項目に関する既知の問題.....	41
製品互換性について.....	44
サードパーティ コンポーネントと配布.....	45
Apache ファイル.....	45
Microsoft ファイル.....	46
Oracle (Sun Microsystems) ファイル.....	48
Web サービスの SOAP クライアントで使用されるソフトウェア.....	48
マニュアルの変更点.....	49
移行について.....	52
PowerBuilder .NET への移行.....	52
PowerBuilder Classic への移行.....	54
以前のバージョンの PowerBuilder からの .NET ターゲットの移行.....	56
EAServer ターゲットの移行.....	57
プロキシの変数名としてのシステム タイプ.....	59
Microsoft SQL Server での OLE DB のパフォーマンス.....	60
OpenTab の動作の変更.....	60
ImportFile のサイズ制限.....	60
ヘルプおよびその他の情報の入手.....	62
テクニカル サポート.....	62
EBFと修正された障害内容のダウンロード.....	62
Sybase 製品およびコンポーネントの認定.....	63
MySybase プロファイルの作成.....	63

製品概要

このリリース ノートでは、PowerBuilder® 12.1 に関する最新情報を提供します。最新版は、Web から入手できます。

Sybase® PowerBuilder バージョン 12.1 は、以下のオペレーティング システムをサポートします。

- Microsoft Windows XP Service Pack 3
- Microsoft Windows XP Tablet PC Edition Service Pack 3
- Microsoft Windows Server 2003 Service Pack 2
- Microsoft Windows Vista Business Edition Service Pack 2
- Microsoft Windows 7 Professional 32 ビット版及び64 ビット版（開発環境とランタイムの両方をサポート）
- Microsoft Windows Server 2008 Service Pack 2（ランタイムのみのサポート）

PowerBuilder 12.1 は、32 ビット版アプリケーションを構築しますが、配布されるアプリケーションは、オペレーティング システムの 32 ビット環境と 64 ビット環境の両方をサポートします。Vista オペレーティング システムで PowerBuilder ヘルプを使用する方法については、PowerBuilder の『ユーザーズ ガイド』マニュアルの「Vista での Windows ヘルプの使い方」を参照してください。

インストールにおける注意事項

PowerBuilder 12.1 日本語版は、PowerBuilder 12.0(英語版)と PowerBuilder 12.1(英語版)の両方の機能を含んでいます。

インストールする前に

- PowerBuilder 12.1 のアップデートは、<http://www.powerbuilder.jp/> からダウンロードして下さい。zip ファイルをダウンロードし、その内容を

一時ディレクトリに取り出して下さい。詳しいダウンロード手順につきましては、*EBFと修正された障害内容のダウンロード* を参照してください。

- PowerBuilder 12.0 が既にインストールされていることを確認して下さい。アップデート版は、PowerBuilder 12.0 の上部にインストールされます。
- このリリースの EXE ファイルは、セットアップ ファイルを TMP 環境変数によって指定されたフォルダ、TMP が定義されていない場合は TEMP 環境変数で指定されたフォルダ、または存在しないディレクトリを直接指定して、そこに抽出します。インストールを開始する前に、このフォルダがあるドライブに十分なディスク容量があることを 確認してください。
- 別の場所を指定するには、Windows コントロール パネルで、システム のプロパティ ダイアログ ボックスを開き、[詳細] タブの [環境変数] ページで、TMP ユーザ変数 (TMP が存在しなければ TEMP) を選択し、十分な容量がある場所を指定します。
- PowerBuilder のアップデート
 1. Sybase¥Shared¥PowerBuilder ディレクトリ内の項目を他のディレクトリにコピーして、バックアップを作成する
 2. 翻訳ツール キットを使用している場合は、Sybase¥PowerBuilder 12.0 ディレクトリ内の TransTlk ディレクトリをバックアップする。また、失いたくない情報を含むその他のファイル、例えば PBL 、データベース ファイルおよび INI ファイルなどもバックアップをとる
 3. システム上で動作しているすべてのアプリケーションを閉じる
 4. zip ファイルから取り出した PowerBuilder ディレクトリ内の setup.exe ファイルを実行する
 5. システム ツリーまたはライブラリ ペインタで PowerBuilder アプリケーションの再構築を実行して、すべての子孫オブジェクトが、それぞれの先祖と一致していること確認し、コード内のすべてのコンパイラ修正を組み込む
- InfoMaker のアップデート
 1. Sybase¥Shared¥PowerBuilder ディレクトリ内の項目を他のディレクトリにコピーして、バックアップを作成する

2. インターネット プラグインを使用している場合は、そのインターネット ツールを Sybase¥InfoMaker 12.0 ディレクトリ内にバックアップする。また、失いたくない情報を含むその他のファイル、例えば PBL、データベース ファイルおよび INI ファイルなどもバックアップをとる
3. システム上で動作しているすべてのアプリケーションを閉じる
4. zip ファイルから取り出した InfoMaker ディレクトリ内の setup.exe ファイルを実行する

すべてのインストールが完了したら、システムを再起動してください。

変更された機能

このバージョンでは、安定性や性能の改良を行い、新しいプラットフォームをサポート、及び重要な機能拡張を行っています。

PowerBuilder 12.1 は、このセクションでの機能が追加された以外は、基本的に以前のバージョンと同じ機能を保有します。

12.1 EBF で変更された機能

12.1 EBF の新機能についてお知らせします。

- [アセンブリの分割](#)
12.1 EBFでは、WPF ターゲットのビルドで複数のアセンブリを生成する方法を提供しています。今までは 1 つの EXE ファイルのみが作成されたのに対し、1 つの EXE と複数 DLL の構成で生成することが可能になりました。
- [.NET アセンブリ ターゲットの機能拡張](#)
12.1 EBF では、.NET アセンブリは、.NET アプリケーション開発で使用する追加 PowerBuilder 言語要素を公開するために拡張されています。

- [.NET イベントの利用](#)

PowerScript 内で .NET イベントの使用が可能になりました。

アセンブリの分割

12.1 EBF では、WPF ターゲットは、今までは 1 回の構築で 1 つの EXE のみが作成されたのに対し、1 つの EXE および複数 DLL のような複数のアセンブリを生成することが可能になりました。

プロジェクト ペインタに [アセンブリ] タブ、および、[依存関係] タブが追加されました。

どのアセンブリをターゲットの PBL から構築するかを指定するには、[アセンブリ] タブを使用します。WPF ターゲット ライブラリ リスト内の各 PBL では、出力アセンブリを選択できます。リスト ビューの 2 列目のドロップダウン リストには、拡張子 “.DLL” が付加されたすべての PBL 名が含まれています。2 列目で出力アセンブリ名を選択すると、PBL がその名前の出力アセンブリに含まれます。左列の PBL が複数でも、同一の出力名を選択することで同一の出力アセンブリに構築されます。2 列目の値を空白にすると、PBL は実行可能ファイルに構築されます。2 列目には、名前を入力することも可能です。名前は全てのドロップダウンリストに追加され、複数の PBL が付与された名前と同一の出力アセンブリに構築されます。

読み取り専用の [依存関係] タブは、構築順序の決定のために、出力アセンブリ間でどのような依存関係を持つかを示しています。依存関係チェックを実行することでページを更新できます。

依存関係のチェック

詳細依存関係の情報は、完全な依存関係のチェック処理が完了した後に、アセンブリ依存関係ツールの画面で表示されます。依存関係のチェック処理は以下のいずれかの場合に行われます。

- 手動で、デザイン > 依存関係チェック メニュー、または WPF プロジェクト オブジェクトのコンテキスト メニューから行う
- 自動で、出力アセンブリの設定変更後のフル構築時に行われる

出力ウィンドウに示されているすべての依存関係エラーは、ターゲットのフル構築を実行する前に解決する必要があります。

依存関係エラー（実行可能ファイルに対する依存関係または循環依存関係）を解決するには、以下のような方法があります。

1. 依存関係エラーがある PBL を単一の出力アセンブリへ結合する
2. オブジェクトを別の PBL へ移動する
3. 異なるオブジェクトや PBL でグローバル変数が頻繁に使用されている場合、グローバル変数を出力アセンブリに入れる
4. 別のオブジェクトを使用するコードへリファクタリングする。（例：グローバル変数の代わりに、ローカル変数やインスタンス変数を使用）
5. 多くの異なる PBL にあり、頻繁に使用されるオブジェクトは、新しい PBL へ移動させ、単一の出力アセンブリにまとめる
6. グローバル外部関数の依存関係エラーは、代わりにローカル外部関数を使用することで解決する。これは現在の制限のため

テスト時に複数の出力アセンブリ機能に関する、以下の分野をテストできます。

1. 出力アセンブリへの PBL 構築をせずに WPF アプリケーションをテストする
 - フル構築プロセスをテストする
 - ランタイム機能をテストする
2. 出力アセンブリを伴う WPF アプリケーションをテストする
 - PBL をアセンブリに設定する
 - グローバル変数へのアセンブリを選択する
 - リソース アセンブリを使用する
 - 手動で依存関係のチェックをテストし、結果を確認する
 - フル構築プロセスをテストする
 - ランタイム機能をテストする
 - インクリメンタル構築をテストする
 - ランタイム時の（データ ウィンドウのような）内部リソースと（画像やテキスト ファイルのような）外部リソースをテストする
 - デバッグをテストする
 - WPF スマート クライアント配布をテスト、配布および実行する

- ・依存関係のチェックおよび構築プロセスのパフォーマンスをテストする

.NET アセンブリ ターゲットの機能拡張

12.1 EBF では、.NET アセンブリは、.NET アプリケーション開発で使用する追加 PowerBuilder 言語要素を公開するために拡張されています。

機能強化されたアセンブリ ターゲットを使用することで、アプリケーションの再構成と、ユーザへ開発フレームワークの提供が可能になります。

プロジェクト ペインタの[オブジェクト] タブで、追加の言語要素を公開しています。

- ・ パラメータを持つコンストラクタ
- ・ ジェネリック型、またはデリゲートを引数として持つ関数
- ・ インデクサ
- ・ .NET プロパティ

インデクサとコンストラクタは名前を変更できません。

追加された言語要素	NVO	名前変更の可否	記述の可否
ジェネリック型関数、またはパラメータとしてのデリゲート関数	○	○	○
パラメータ化されたコンストラクタ	○	×	○
イベント	×	○	○
インデクサ	○	×	○
.NET プロパティ	○	○	○
インスタンス変数	○	○	○

次の例では、.NET アセンブリで公開することができる追加言語要素の PowerShell 構文を紹介します。

- ジェネリック型関数、またはパラメータとしてのデリゲート関数
`public function integer f1(System.Collection.List<string> s)`
- パラメータ化されたコンストラクタ
`event constructor(string s)`
- イベント
`event type integer e1(long row)`
- インデクサ
`public integer this[Integer i][get,set]`
- .NET プロパティ
`public integer p1[get,set]`
- インスタンス変数
`public string s1`

.NET イベントの利用

PowerScript で、.NET イベントを利用できるようになりました。

PowerScript によって、単一または複数の PowerBuilder メソッドを .NET イベントへ接続できます。メソッドは、PowerBuilder グローバル関数、PowerBuilder オブジェクトのインスタンス関数、および .NET オブジェクトのスタティック関数やインスタンス関数となる場合があります。PowerScript で、PowerBuilder イベントを .NET イベントへ動的に接続することも可能です。

.NET イベントはクラスやデータ型ではないため、.NET イベントで変数やパラメータを宣言することはできません。PowerBuilder コードで、新規の .NET イベントを宣言することもできません。PowerBuilder で "+=" 接続詞を使用して、他の .NET 言語で宣言された .NET イベントを利用することのみ可能です。

以下の例では、PowerScript で .NET イベントへ動的に接続する方法を紹介します。

clicked は、サードパーティの .NET コントロールの system.windows.controls.button で定義されている .NET イベントです。OnClick1 が System.Windows.Controls.Button コントロールの Clicked .NET イベントと全く同じシグネチャを持っている PowerBuilder イベントであると仮定すると、次のような使用方法がサポートされます。

PowerBuilder のイベント OnClick1 を定義

```
Event OnClick1(system.object sender, RoutedEventArgs e)
```

OnClick1 を、System.Windows.Controls.Button コントロールであるインスタンスの Clicked .NET イベントへ接続

```
System.Windows.Controls.Button cb1
```

```
cb1 = create System.Windows.Controls.Button()
```

```
cb1.clicked += OnClick1
```

PowerBuilder のイベントを PowerBuilder コントロールであるインナー コントロールの .NET イベントに接続

```
System.Windows.Controls.Button b
```

```
b = cb_1.InnerControl
```

```
b.Click += OnClick1
```

12.1 で変更された機能

12.1 の新機能についてお知らせします。

- [ASE 15.5 サポート](#)

PowerBuilder および InfoMaker は Adaptive Server Enterprise のサポートを更新しました。

- [SQL Anywhere 12.0 サポート](#)

PowerBuilder および InfoMaker は Sybase SQL Anywhereへのサポートを更新しました。

- [XAML エディタの機能拡張](#)

PowerBuilder 12.1 には、XAML エディタへの変更も含まれています。

- [サードパーティ コントロール サポート](#)

PowerBuilder .NET 12.1 ではサードパーティ コントロールのサポート

- **プロジェクトの機能拡張**
PowerBuilder .NET に、新しいプロジェクト作成機能が追加されました。
- **配列次元の機能拡張**
PowerBuilder .NET の配列に機能拡張が行われました。
- **WPF アプリケーションにおけるOLEコントロール サポート**
PowerBuilder 12.1 は、OLE コントロールから WPFへの移行をサポートします。
- **WPF データウィンドウの RightToLeft 機能拡張**
PowerBuilder では、データウィンドウ グラフィック オブジェクトでの RightToLeft 書式（右から左）に対しての機能拡張が行われました。
- **HasMinHeight プロパティ**
PowerBuilder Classic 12.1 では、データ ウィンドウ オブジェクトに新しい高さプロパティが追加されました。このプロパティは、ネイティブ PowerBuilder でのみサポートされています。Windows フォーム、Web フォーム、または PowerBuilder .NET ではサポートされません。
- **FontHeight 関数**
PowerBuilder Classic 12.1 では、データ ウィンドウ オブジェクトに新しい高さを表現する関数が追加されました。この関数は、ネイティブ PowerBuilder でのみサポートされています。Windows フォーム、Web フォーム、または PowerBuilder .NET ではサポートされません。
- **PrintOpen 関数の動作変更**
PowerBuilder .NET では、PrintOpen 関数は 0 、または有効な整数を返します。
- **Find 関数の機能拡張**
Find 関数に、バッファ引数が追加されました。

ASE 15.5 サポート

PowerBuilder および InfoMaker は、Adaptive Server Enterprise のサポートを更新しました。

PowerBuilder および InfoMaker 12.1 では、Adaptive Server Enterprise 15.5 にアクセスすることはできますが、ASE 15.5 の新機能へのサポートはありません。

SQL Anywhere 12.0 サポート

PowerBuilder および InfoMaker アップデートは Sybase SQL Anywhere のサポートを更新しました。

PowerBuilder および InfoMaker 12.1 では、SQL Anywhere version 12.0 にアクセスすることができます。しかし、SQL Anywhere の新機能へのサポートはありません。

XAML エディタの機能拡張

PowerBuilder 12.1 では XAML エディタに変更が加えられています。

新しい機能により、スクリプト エディタ コントロール リストと XAML レイアウト ビューの間の不一致を解決できます。

ウィンドウまたはユーザ オブジェクト ペインタのレイアウト ビューがアクティブである場合、メニュー **[デザイン]** に **[レイアウトをスクリプトと同期]** が表示されます。レイアウトのコントロール リストと、それに対応するスクリプト エディタに不一致が存在する疑いがある場合（例えば、PowerBuilder IDE の外部で XAML ドキュメントを編集した後など）、**[デザイン | レイアウトをスクリプトと同期]** をクリックしてください。レイアウトをスクリプトと同期 ダイアログ ボックスは不一致が検出されるかどうかを示し、追加、削除、または移動されたコントロールをリスト表示します。表示された変更予定が正しい場合、**[OK]** をクリックして、変更を確定します。

サードパーティ コントロール サポート

PowerBuilder .NET 12.1 でサードパーティ コントロールのサポートが追加さ

れました。

PowerBuilder .NET の開発者は、サードパーティ製の WPF コントロール (Microsoft のコントロールを含む) をアプリケーション開発で利用できるようになりました。PowerBuilder WPF コントロールと同様に、ツールボックスからサードパーティ コントロールを挿入できます。 (*PowerBuilder .NET 機能ガイド*を参照してください。) PowerBuilder .NET 12.1 ではサードパーティ コントロールの以下の機能をサポートします。

- サードパーティ コントロールのプロパティ、関数およびイベント
- サードパーティ コントロールからの継承
- 保護されたサードパーティ コントロール

ビジュアル サードパーティ WPF ユーザ オブジェクトには、他にも制限があります。Tab コントロールや Expander 等のサードパーティ コンテナ WPF コントロールから継承されたビジュアル ユーザ オブジェクトは、追加されたコントロールを持つことができません。ビジュアル ユーザ オブジェクトの代わりに、カスタム ビジュアル ユーザ オブジェクトを使用してカスタマイズするか、独自のコントロールに結合してください。

プロジェクトの機能拡張

PowerBuilder .NET に、新しいプロジェクト作成機能が追加されました。

既存のターゲットに基づいた新しいプロジェクト オブジェクト

以前は、既存のターゲットを移行して新しい WPF プロジェクトを作成するには、いくつかのウィザード画面で新しいプロジェクトの設定を入力する必要がありました。PowerBuilder 12.1 では、次のステップが省略できます。ウィザードの 1 ページ目でのオプションの選択、既存プロジェクトからの設定のコピーおよび既存プロジェクトの選択用ブラウザ ボタンのクリック、のステップです。PowerBuilder は、既存のプロジェクト オブジェクトの適切なプロパティの設定に基づいた新しい WPF プロジェクト オブジェクトを即時に生成します。(ターゲット内のプロパティには WPF Window アプリケーションに適切でないものもあります。) 新規のプロジェクトは、以降でも設定の変更および追加ができます。

ターゲットおよび新規プロジェクトの作成は、以下のいずれの方法でも可能です。

- Win32 ターゲットを WPF へ移行
- Win フォーム ターゲットを WPF へ移行
- .NET アセンブリ ターゲットを PB.NET へ移行

警告を抑制する新しいオプション

WPF プロジェクト ペインタと .NET アセンブリ プロジェクト ペインタでは、特定の種類の警告を抑制する新しいオプションが、**[全般]** タブに含まれています。

全てのサポート対象外機能

ビルド時に発生する全てのサポート対象外機能の警告を、非表示または表示のいずれかにできます。

メッセージ番号による特定の警告

警告のメッセージ番号がわかれば、非表示にするメッセージを一つ以上指定できます。(たとえば、前回の構築を出力する際に表示されていたものなど)

配列次元の機能拡張

PowerBuilder .NET の配列の機能拡張を行いました。

開発者は、実行時の配列の次元を動的に作成できます。PowerBuilder 12.0 では、この機能は文字式のみで制限されていましたが、PowerBuilder 12.1 では、関数呼び出し、ドット式、配列式、および識別子式を含んだ様々な種類の式を使用して、実行時に配列の次元を指定できます。

例えば、次の式は、f1 がオブジェクト c の関数であれば有効です。

```
int a[]  
a = create int [c.f1()]
```

WPF アプリケーションにおける OLE コントロール サポート

PowerBuilder 12.1 は OLE コントロールの WPF への移行をサポートしていません。

OLE コントロールは .NET で使用されないため、代わりにサードパーティ コントロール、または互換性のあるコントロールを使用することを推奨しています。しかしながら、PowerBuilder は .NET へ移行しやすいように限定的なサポートを提供します。OLE コントロールのサポートには以下のような制限があります。

- 開発時において、WPF アプリケーションに対する OLE コントロールの挿入、または継承はサポート対象外。
- PowerScript 内での動的な OLE コントロールの作成はサポート対象外。
- OLE コントロールの構造化ストレージの保存および検索はサポート対象外。代わりに、スクリプトを使用して初期値の設定は可能。
- WPF アプリケーション内では、ほとんどの in-process OLE コントロール (OCX, DLL) が使用できるが、out-of-process OLE コントロール (EXE) は使用できない。
- サードパーティおよび OLE コントロールの移行は、それらの互換性に依存する。

OLE コントロールを WPF に移行する前に、.NET framework SDK 2.0 以降のインストールが必要です。

WPF データウィンドウの RightToLeft 機能拡張

PowerBuilder では、データウィンドウ グラフィック オブジェクトでの RightToLeft 書式 (右から左) に対して機能拡張が行われました。

- PowerBuilder 12.1 は全てのデータウィンドウ グラフィック オブジェクトに対し、RightToLeft カラム プロパティを置き換えて、新しい FlowDirection プロパティを導入します。RightToLeft 書式 (右から左) は、データウィンドウ ペインタに表示されなくなりますが、下位互換のために使用は可能です。

- PowerBuilder は、非推奨の RightToLeft プロパティをシミュレートするために、データウィンドウの FlowDirection プロパティを使用するタイミングを検出します。
- RightToLeft カラムへ入力された言語は、ネイティブ PowerBuilder と同様に表示されるように拡張されます。

HasMinHeight プロパティ

PowerBuilder Classic 12.1 では、データ ウィンドウ オブジェクトに新しい高さプロパティが追加されました。このプロパティは、ネイティブ PowerBuilder でのみサポートされています。Windows フォーム、Web フォーム、または PowerBuilder .NET ではサポートされません。

以前のバージョンでは、データウィンドウ オブジェクトのカラムの高さの自動調整を有効にすることで、データがないカラムは完全に非表示になりました。PowerBuilder Classic 12.1 では、新しい HasMinHeight プロパティ (boolean 型) を使用することで、カラムの最小の高さを維持することができます。プロパティのデフォルト値は false です。

HasMinHeight は高さの自動調整が有効なカラムのみ適用されます。高さの自動調整と HasMinHeight プロパティの両方が true である場合、高さの値は、自動で取得した値 (高さの自動調整を true に設定したときの計算値) と Height プロパティで指定された値の間で最大値を取ります。

```
dw_1.object.fname.Height.HasMinHeight = "no"
```

```
dw_1.object.compute_1.Height.HasMinHeight = "yes"
```

```
dw_1.object.t_1.Height.HasMinHeight = "no"
```

FontHeight 関数

PowerBuilder Classic 12.1 では、データウィンドウ オブジェクトに新しい高さを表現する関数が追加されました。この関数は、ネイティブ PowerBuilder でのみサポートされています。Windows フォーム、Web フォーム、または PowerBuilder .NET ではサポートされません。

新しいデータウィンドウ関数 `FontHeight` により、カラムや計算フィールドのフォントの高さを調べることができます。この関数の引数はカラム名です。この関数を使用して、フォントサイズの最小値を設定することができます。

```
dw_1.object.fname.Height = "0~tFontHeight(fname)"
```

PrintOpen 関数の動作変更

PowerBuilder .NET では、`PrintOpen` 関数は 0、または正の整数を返します。

`PrintOpen` 関数は、正常終了するとジョブ番号を返し、エラーが発生した場合は -1 を返します。

- PowerBuilder Classic では、ジョブ番号はメモリのアドレスです。
- PowerBuilder .NET では、ジョブ番号は有効な整数か 0 です。

次のようなコードを使用することで確認できます。

```
ll_test = PrintOpen("Phone List", true)
if ll_test >= 0 then
    ...
    ...
end if
```

Find 関数の機能拡張

データウィンドウの `Find` 関数に、バッファを指定する引数が追加されました。

Delete! バッファ、または Filter! バッファ内で条件に合ったデータを見つけるために、この新しい引数を使用することができます。デフォルト値は Primary! です。この引数の指定はオプションです。

```
long dwcontrol.Find (string expression, long start, long end{ , DWBuffer
buffer})
```

既知の問題

既知の問題と回避策についてお知らせします。

注意: Sybase Web サイトで解決済み事例を検索することができます。[サポート > 解決事例] を選択するか、<http://search.sybase.com/search/simple.do?mode=sc> にアクセスしてください。アーカイブ内の解決済み事例を参照するには、MySybase アカウントが必要です。

データベースに関する既知の問題

PowerBuilder のデータベースに関する既知の問題をお知らせします。

表 2 : データベース接続に関する問題	
CR#	解説
634719	<p>64 ビット版 Windows 環境での Informix への接続</p> <p>PowerBuilder では、Windows 64 ビット上で、ADO.NET を利用して Informix データベースに接続するには、32 ビットと 64 ビット両方の Informix データベース ドライバをインストールする必要があります。</p>
626396	<p>PowerBuilder .NET Web フォームでの ASE 15.5 への接続</p> <p>PowerBuilder .NET および PowerBuilder の Web フォーム アプリケーションは、現行の ASE 15.5 ドライバを使用して ADO .NET を経由して Adaptive Server Enterprise データベースに接続することはできません。この問題は、PowerBuilder Classic あるいは PowerBuilder Win フォーム アプリケーションでは発生しません。</p> <p>部分的回避策: ASE 15.5 ESD #7 あるいはそれ以降の SDK ドライバがインストールされていれば、PowerBuilder アプリケーションで接続が可能です。この問題は PowerBuilder Web フォーム アプリケーションでは解決されていません。</p>

WPF ウィンドウとメニュー ペインタに関する既知の

問題

PowerBuilder .NET の WPF ウィンドウとメニュー ペインタに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

CR#	解説
618528	<p>名前に特殊記号が使用されているメニュー項目を削除できない。</p> <p>PowerBuilder .NET では、メニューの名前に「@」、「#」、「\$」などの記号が使用されていると、そのメニューを削除できません。</p>
612182	<p>PowerBuilder .NET でプロパティ ウィンドウの [イベント] タブが正しくサポートされない。</p> <p>このタブに表示されないイベントがあります。また、プロパティ ウィンドウで、オブジェクトのイベントを表示し、イベントをダブルクリックするか、一覧表示された各イベントの横のドロップダウンリストの内部をクリックすると、イベント ハンドラが無効であるという内容のエラー メッセージが表示されます。</p>

WPF データ ウィンドウに関する既知の問題

PowerBuilder .NET の WPF データウィンドウに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 4 : WPF データ ウィンドウの問題	
CR#	解説
624520	<p>XML にエクスポートする際、データウィンドウ オブジェクトの名前は文字で開始しなければならない。</p> <p>データウィンドウ オブジェクトは、その名前が数値で始まる場合には、XML ファイルフォーマットにエクスポートできません。先頭に続く文字は、有効となります。これは、W3C 標準となります。</p>
618123	<p>データウィンドウを PDF 形式で保存するとフォント サイズが変わる。</p> <p>データウィンドウを PDF 形式で保存すると、フォント サイズが変わります。フォント名も変わります。</p>
593727	<p>データウィンドウが大量のデータを持つことが原因でエラーになることがある。</p> <p>800 MB より多くのメモリを使用するデータウィンドウをプレビューすると、PowerBuilder .NET IDE がエラーすることがあります。同じデータをランタイムで取得した場合も、エラーが発生するか、OutOfMemory 例外が送出されることがあります。</p>

表 5 : WPF リッチテキスト データウィンドウの問題

CR#	解説
621618	<p>リッチテキスト データウィンドウ オブジェクト内の大きなファイルによりパフォーマンスが低下する。</p> <p>400 KB 以上のファイルを使用するリッチテキスト データウィンドウ オブジェクトを保存または開く場合、パフォーマンスが低下します。</p>

表 5： WPF リッチテキスト データウィンドウの問題

CR#	解説
613487	<p>リッチテキスト カラムのテキストが改ページで誤って切り捨てられる。</p> <p>リッチテキスト カラムが 2 ページにわたる場合、そのテキストは改ページ位置で誤って切り捨てられます。</p>

WPF スクリプトと XAML エディタに関する既知の問題

PowerBuilder .NET の WPF スクリプトと XAML エディタに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 6 : WPF スクリプトと XAML エディタの問題

CR#	解説
623935	<p>「this」代名詞は、IF... THEN 文のブール式では使用できない。</p> <p>PowerBuilder .NET では、IF... THEN 文に以下のコードを記述すると InvalidCast 例外が発生する。</p> <pre>IF this = getfocus() THEN ... END IF</pre> <p>回避策: 下記のコードに変更してください。</p> <pre>dragobject <i>dragob</i> <i>dragob</i>=this IF <i>dragob</i> = getfocus() THEN END IF</pre>

WPF コントロールに関する既知の問題

PowerBuilder .NET の WPF コントロールに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 7 : WPF コントロールの問題	
CR#	解説
572458	<p>タブ ページ項目の追加によりデザイン時にちらつく。</p> <p>デザイン時にタブ コントロールで [タブを追加] コンテキスト メニュー項目を選択すると、モニタがわずかにちらつくことがあります。</p>
572400	<p>タブページ タブをタブ コントロールの外側に拡張できる。</p> <p>タブ コントロールに複数のタブ ページを追加すると、PowerBuilder は自動的に矢印ボタンを追加して、隠されているものを含め、ユーザがすべてのタブをクリックできるようにします。しかし、PowerBuilder .NET では、デザイン時および実行時にタブ ページが切り捨てられたような外観にして、矢印ボタンがタブ ページのテキストの一部を隠すことがあります。デザイン時には、タブ ページの枠がメインのタブ コントロールの外側に表示される場合があります。</p>
570542	<p>一部のインスタンスで TextCase プロパティを再設定しなければならない。</p> <p>プロパティ ビューの TextCase プロパティが Upper! または Lower! に設定されていても、大文字と小文字が混在するテキストをシングル ライン エディット コントロールに追加すると、テキストは、プロパティで示された大文字と小文字の指定を、自動的に反映しません。</p> <p>回避策: TextCase プロパティで異なる値を選択した後、元の値を再度選択することで、大文字と小文字を変更できます。</p>

サードパーティおよびカスタム コントロールに関する既知の問題

PowerBuilder .NET のサードパーティ および カスタム コントロールに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 8 : サードパーティおよびカスタム コントロールの問題	
CR#	解説
640523	<p>サードパーティ コントロールが含まれている場合、WPF スマート クライアント アプリケーションの発行に失敗する。</p> <p>WPF アプリケーションにサードパーティ コントロールが含まれており、必要な参照アセンブリ ファイルが構築サブフォルダ (..\¥bin¥Debug または ..¥bin¥Release) 内に存在しない場合、WPF アプリケーションをスマート クライアント アプリケーションとして発行すると、発行サブフォルダ (..\¥bin¥Debug¥published または ..¥bin¥Release¥published) に関連ファイルがコピーされません。</p> <p>回避策: publish.xml ファイル <ReferenceAssemblyFiles> セクションに従って、必要なすべてのアセンブリ ファイルを構築フォルダ (..\¥bin¥Debug または ..¥bin¥Release) にコピーしてください。(publish.xml ファイルも構築サブフォルダ内にあります。) それにより、発行が成功します。</p>
635007	<p>サードパーティ コントロール使用における、XAML でのベスト プラクティス。</p> <p>サードパーティ コントロールを追加する前に、XAML のルート要素にサードパーティ名前空間を定義してください。名前空間の定義より先にサードパーティ コントロールを追加すると、不正な名前空間がインラインに追加され、XAML 名前空間エラーの原因となります。</p>

表 8 : サードパーティおよびカスタム コントロールの問題

CR#	解説
633431	<p>新しく追加した [ツールボックス] タブが消える場合がある。</p> <p>新しいタブをツールボックスに追加した後 PowerBuilder .NET がクラッシュすると、追加したタブが保存されません。</p>
626856	<p>バージョンの異なる WPFToolkit.dll を参照するサードパーティ コントロールを使用すると、構築エラーが発生する。</p> <p>PowerBuilder .NET の WPF アプリケーションで参照される WPFToolkit.dll (バージョン 3.5.40320.1) は自動的に追加されません。バージョンの異なる WPFToolkit.dll を参照するサードパーティ WPF コントロールを使用すると、以下の構築エラーが発生します。「見つかったアセンブリのマニフェスト定義はアセンブリ参照に一致しません。」</p>
621554	<p>一部のサードパーティ コントロールはダブルクリックでスクリプト ビューを表示しない。</p> <p>レイアウト ビューで RadCalendar などの一部のサードパーティ コントロールをダブルクリックしてもスクリプト ビューが自動的に開きません。この問題は、Visual Studio でも発生します。</p> <p>回避策: ウィンドウまたは親コントロールのスクリプト ビューを開き、左上のドロップダウン リストからサードパーティ コントロールを選択します。</p>

WPF継承に関する既知の問題

PowerBuilder .NET の継承に関する既知の問題と回避策をお知らせします。

CR#	解説
624278	<p>先祖メニュー項目を削除すると、子孫メニューの整合性チェックでエラーになることがある。</p> <p>先祖メニューでメニュー項目を削除した場合、子孫メニューを開こうとする時に、[オブジェクトの状態エラー] ダイアログ ボックスが表示されることがあります。また、子孫メニューをメニュー ペインタで開くと、子孫メニューが空白になる場合があります。</p> <p>回避策: [オブジェクトの状態エラー] ダイアログ ボックスで [OK] をクリックし、[ファイルを開く] ダイアログ ボックスで [PowerScript エディタ] を選択します。エディタでは、ソース コード内の削除されたメニュー項目が赤い下線でハイライト表示されます。下線付きメニュー項目を含むすべての <code>Type ... End Type</code> および <code>On ... End On</code> 句をコメントアウトまたは削除すると、メニュー ペインタで再び子孫メニューを開けます。</p>

.NET 言語機能拡張に関する既知の問題

PowerBuilder の .NET 言語機能拡張に関する既知の問題と回避策をお知らせします。

CR#	解説
620924	<p>パラメータ化されたコンストラクタの削除では、子オブジェクト内の継承されたコンストラクタが削除されない。</p> <p>子オブジェクトのパラメータ化されたコンストラクタにコードを追加することで、そのコンストラクタを拡張し、親オブジェクトのパラメータ化されたコンストラクタを削除すると、削除された親コンストラクタを呼び出す非表示のシステム生成スクリプトが子オブジェクトのソース コードに含まれたままになります。この結果、コンパイルが失敗します。</p>

WPF ランタイムに関する既知の問題

実行時の PowerBuilder .NET WPF アプリケーションに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 11 : WPF ランタイムの問題	
CR#	解説
655873	<p>リソースの画像以外のファイルをロードできない。</p> <p>WPF ターゲットのコード中では、ファイルを扱うシステム関数で画像以外の埋め込み外部リソースを扱うことが出来ません。</p> <p>例えば、テキストファイルを通常のコンテンツから埋め込みリソースに変更した場合、リソースファイルのロードは実行時に失敗します。</p>
655701	<p>埋め込みのサードパーティ コントロール リソースをロードできない。</p> <p>サードパーティ コントロール用の外部コンテンツ リソース (Microsoft WPF Image コントロールなど) のロードが実行時に失敗します。埋め込みリソースのみ実行時に正常にロードできます。</p>
618158	<p>ツールバーをドラッグしても ToolBarMoved イベントが起動されない。</p> <p>PowerBuilder .NET では、SDI ウィンドウを開いたときのみ、このウィンドウに対して ToolBarMoved イベントが起動されます。</p>
590157	<p>日付ピッカー コントロールおよび月表示カレンダー コントロールでのカルチャ設定の問題</p> <p>日付ピッカーおよび月表示カレンダー コントロールは、en-us 以外のカルチャ設定で日付を正しくない形式で表示します。日付ピッカー コントロールのカスタム書式 プロパティの複数の形式文字列 (MMMM、MMM、dddd、ddd、tt) も、これらのカルチャ設定で正しく表示されません。</p>

表 11 : WPF ランタイムの問題

GR#	解説
	<p>12 時間制または 24 時間制の表示 (h と H) の 1 桁値を有効にするためのマスクが正しく機能しません。PowerBuilder .NET では、これらは hh および HH マスクと同様に機能し、時間値を常に 2 桁で表示します。</p>
585399	<p>アプリケーションとアセンブリを同じ名前にできない。</p> <p>アセンブリとアセンブリを参照する WPF アプリケーションに同じ名前を使用すると、ランタイム エラーが発生します。</p> <p>回避策: WCF クライアント プロキシ プロジェクトでは、生成されたアセンブリに、プロジェクトをホストする WPF アプリケーションの名前を付けないでください。</p>
582510	<p>リストビュー コントロールでの複数アイテム選択</p> <p>拡張選択プロパティのチェックをオンにすると、リストビュー コントロールでの複数項目選択が有効になります。ただし、WPF アプリケーションでは、選択する項目をマウスで囲い選択することはできません。</p> <p>回避策: WPF アプリケーションでは、複数項目を選択するために [Shift] を押したままにしなければなりません。</p>

WPF デバッガに関する既知の問題

PowerBuilder .NET の WPF デバッガに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

CR#	解説
637697	<p>PowerBuilder .NET デバッガ ウォッチ ビューで配列式が評価できない。</p> <p>PowerBuilder .NET デバッガ ウォッチ ビューは、配列を含む式を評価できません。</p>
620549	<p>ゼロベースの配列がデバッガで正しく表示されない。</p> <p>デバッガが一部の Web サービスで使用されるゼロベースのオブジェクト配列を正しく表示しません。</p>
620068	<p>[ソース コードへ移動] が 1 つのターゲットに対してのみ機能する。</p> <p>一部のデバッガ ウィンドウで、ブレークポイントを選択し、[ソース コードへ移動] コマンドを使用してブレークポイントでソース コードを開くことができます。このコマンドは、複数の PowerBuilder .NET ターゲットを持つ PowerBuilder .NET ワークスペースのブレークポイントで正しく機能しません。</p>
616269	<p>クイックウォッチ ウィンドウに正しくないチェックボックス コントロール プロパティがある。</p> <p>クイックウォッチ ウィンドウにチェックボックス コントロール プロパティが正しく表示されないことがあります。</p>

表 12 : WPF デバッガの問題

GR#	解説
614864	<p>デバッガ出力内の不要な一時変数</p> <p>アプリケーション コードには存在しない一時変数 (__PB_TEMP_DB__OutputVars0 など) がデバッガ ウィンドウに表示されることがあります。</p> <p>回避策: これらの一時変数は無視しても問題ありません。</p>
610237	<p>FOR...NEXT 文でカーソルが 2 回停止する。</p> <p>ブレークポイントを FOR...NEXT 文の直前に設定し、連続で Step Into コマンドを発行すると、WPF デバッガのカーソルが FOR 句がある行で 2 回停止します。</p>

WCF クライアント プロキシに関する既知の問題

PowerBuilder .NET の WCF クライアント プロキシに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

CR#	解説
616323	<p>WCF クライアントは FDCC 環境ではクライアント資格情報の設定が IssuedToken の場合機能しない。</p> <p>IssuedToken クライアント資格情報は SHA1Managed 暗号を使用します。これは、暗号モジュールの連邦情報処理標準 (FIPS : Federal Information Processing Standards) に準拠していません。これにより、連邦政府のデスクトップ基準 (FDCC : Federal Desktop Core Configuration) を使用するコンピュータにより WCF クライアント コミュニケーション要求が失敗します。</p>
590729	<p>ウィンドウ ペインタが開いた状態で、プロジェクトが再配布される。</p> <p>WCF クライアント プロキシ プロジェクトを再配布する間、WPF ウィンドウを開いたままにすると、ウィンドウ ペインタの一番上にデザイナのリロードを要求するメッセージが表示されます。</p>

FlowDirection プロパティに関する既知の問題

PowerBuilder .NET の FlowDirection プロパティに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 14 : FlowDirection プロパティの問題	
CR#	解説
590684	<p>プレビュー がアプリケーションで設定したフロー方向で表示されない。</p> <p>ウィンドウをプレビューした場合、プレビューされているウィンドウではなく、アプリケーション オブジェクトでアプリケーションが右から左のフロー方向に設定されているとき、プレビューされたウィンドウは右から左のフロー方向で表示されません。プレビューを正しく動作させるには、プレビューするウィンドウでもフロー方向を設定しなければなりません。</p>

移行に関する既知の問題

PowerBuilder .NET への移行に関する既知の問題と回避策をお知らせします。

CR#	解説
634087	<p>OLE コントロールは移行可能だが、追加と編集はできない。</p> <p>OLE コントロールを含む PowerBuilder Classic アプリケーションを PowerBuilder .NET の WPF アプリケーションに移行できますが、移行後のアプリケーションで OLE コントロールの追加と編集はできません。XAML ビューでコントロールを編集すると、フル構築時にエラーが発生する場合があります。（たとえば、XAML ビューで OLE コントロールをコピーして貼り付けた場合など）</p>
621806	<p>移行後、MDI ウィンドウに空白領域が表示される。</p> <p>PowerBuilder Classic では、MDI または MDIHelp ウィンドウのツールバーはウィンドウのクライアント領域で他の空いているスペースを占有します。PowerBuilder .NET では、ツールバーに占有されるスペースはクライアント領域の一部ではないため、MDI ウィンドウを移行した場合、以前にツールバーで占有されていたスペースが空白になります。</p> <p>回避策: 移行後、MDI ウィンドウ内のコントロールを移動して、あらかじめツールバーで占有されていたクライアント領域をカバーするようにします。</p>

インストールに関する既知の問題

PowerBuilder セットアップ プログラムに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 16 : インストールの問題

CR#	解説
624331	<p>インストーラが必要なコンポーネントを見つけることができない。</p> <p>Windows Vista では、PowerBuilder セットアップ プログラムで 1 つ以上のコンポーネントを見つけることができないというメッセージが表示され、PowerBuilder の再インストールが要求される場合があります。また、インストールが正常に終了しても、PowerBuilder .NET IDE を開始するときに同じエラー メッセージが表示される場合もあります。</p> <p>回避策: エラー メッセージを削除します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. コンピュータを再起動します。2. Visual Studio Isolated Shell (Support ディレクトリの vs_shell_isolated.enu.exe) を手動でインストールします。3. 修正プログラム (Support ディレクトリの VS90SP1-KB958017-x86.exe および VS90SP1-KB975247-x86.exe) を手動でインストールします。4. [スタート ファイル名を指定して実行] を選択し、ファイル名を指定して実行 ダイアログ ボックスに cmd と入力します。5. DOS のディレクトリ変更コマンド (CD) を使用して Sybase¥PowerBuilder 12.0 ディレクトリに移動します。6. regshell.bat と入力します。

表 16 : インストールの問題

CR#	解説
607351	<p>SQL Anywhere のインストール中にエラー メッセージが表示される。</p> <p>PowerBuilder セットアップ プログラムでは、SQL Anywhere インストーラの最後の手順で次のメッセージが表示される場合があります。「Invalid license data. Reinstall is required. 」</p> <p>回避策: [OK] をクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。SQL Anywhere のインストールは正常に完了します。</p>

Web フォーム アプリケーションに関する既知の問題

Web フォーム アプリケーションに関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 17 : PowerBuilder Classic Web フォームの問題	
CR#	解説
624288	<p>標準ユーザが Web フォーム アプリケーションをデバッグできない。</p> <p>Windows Vista または Windows 7 に標準ユーザとしてログインすると、デバッグ プロセスを ASP.NET ワーク プロセスにアタッチできないため、Web フォーム アプリケーションまたは .NET Web サービス コンポーネントをデバッグできません。アプリケーションまたはコンポーネントを標準ユーザとして配布しようとする、権限を昇格できるユーザ制御コントロール (UAC : User Account Control) ダイアログ ボックスが表示されますが、アプリケーションまたはコンポーネントをデバッグしようとした場合は表示されません。</p> <p>回避策: [管理者として実行] を選択して PowerBuilder Classic IDE を起動し、アプリケーションまたはコンポーネントをデバッグします。</p>
497981	<p>.NET Framework 3.5 SP1 を使用する Web フォーム プロジェクトは AJAX 1.0 Extensions を必要とする。</p> <p>.NET Framework 3.5 Service Pack 1 のセットアップ プログラムには AJAX 2.0 Extensions が含まれています。しかし、.NET Web フォームには AJAX 1 Extensions が必要です。AJAX 1.0 Extensions は、Microsoft 社の Web サイト http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=ca9d90fa-e8c9-42e3-aa19-08e2c027f5d6 からダウンロードできます。</p>

アセンブリの分割に関する既知の問題

PowerBuilder .NET のアセンブリの分割に関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 18 :アセンブリ分割の問題	
CR#	解説
657114	<p>スクリプトに変更を加えた後、フル構築処理を行っても、依存関係のチェックは自動的に実行されません。</p> <p>潜在的に依存関係のエラーがあった場合、構築エラーが発生する可能性があります。</p> <p>回避策: 加えた変更が依存関係に影響を及ぼす可能性がある場合は、手動で依存関係チェックを実行してください。</p>
647772	<p>グローバル外部関数に関するアセンブリ分割の依存関係チェックのエラー。</p> <p>アセンブリを分割したプロジェクトの依存関係チェックを実行した場合、グローバル外部関数を呼び出している行に依存関係エラーが発生する。これを避けるために、グローバル外部関数をローカル外部関数に置き換えることによってリファクタリングしてください。</p>
644570	<p>アプリケーション オブジェクトを含む PBL がアセンブリ分割に含まれた場合、exe ファイルが作成されません。</p> <p>アセンブリと exe ファイルに名前の重複があった場合、【アセンブリ】に赤枠とツールチップが表示されます。保存時には、名前は無視されます。</p> <p>exe ファイルと同じ名前の PBL があった場合、デフォルトの動作として、その DLL は【アセンブリ】のドロップダウン リストから除外されます。</p>

その他の項目に関する既知の問題

PowerBuilder .NET のその他の項目に関する既知の問題と回避策をお知らせします。

表 19 : PowerBuilder .NET のその他の問題	
CR#	解説
640509	<p>スマート クライアント WPF アプリケーションの名前が大文字の場合、インストールに失敗する。</p> <p>スマート クライアント WPF アプリケーションの名前は、通常、すべて小文字を使用して生成されます。したがって、マニフェストで大文字を含むアプリケーション名が指定されると、インストールが失敗します。</p> <p>回避策: プロジェクト ペインタの [全般] ページにて WPF アプリケーション実行ファイル名を指定する場合は、小文字のみ使用してください。</p>
626344	<p>Windows 7 での保存動作の矛盾</p> <p>Windows 7 環境では、オブジェクトのタイプと Windows ユーザのタイプに依存してオブジェクトの保存のとき、PowerBuilder .NET では、保存の矛盾を伴います。</p> <p>例えば、PowerBuilder では、[管理者として実行] を選択して PowerBuilder .NET IDE を起動しないと、管理者がウィンドウペインタを保存しても、レイアウトビューがクリアされる場合があります。</p>
624291	<p>Windows Vista および Windows 7 でのスマート クライアント アプリケーションの発行</p> <p>Windows Vista および Windows 7 では、標準ユーザおよび管理者グループのユーザはスマート クライアント WPF アプリケーションを発行できません。</p> <p>回避策: [管理者として実行] を選択して PowerBuilder .NET IDE</p>

表 19 : PowerBuilder .NET のその他の問題

GR#	解説
	<p>を起動し、スマート クライアント アプリケーションの発行を有効にしてください。</p>
623684	<p>標準ユーザ ログインでプロジェクトを作成するとエラーが発生する。</p> <p>現在のユーザに TMP 環境変数に割り当てられたディレクトリへの書き込み権限がない場合、ユーザがターゲット ウィザードまたはプロジェクト ウィザードで PowerBuilder .NET プロジェクトを作成しようとする、出力ウィンドウにエラー メッセージが表示されます。</p> <p>回避策: TMP 変数に、現在のユーザが書き込み権限を持つディレクトリを設定してください。</p>
617268	<p>GetLatestVersion が、別のユーザによって Perforce に追加されたすべてのファイルを取得しない。</p> <p>2 人のユーザが同じソリューションを Perforce 2008 デポから追加し、最初のユーザがそのソリューション用の新しいオブジェクトをチェックインした場合、2 番目のユーザは 【最新バージョンの取得(再帰)】 を選択して新しいオブジェクトを追加できます。ただし、新しいプロジェクトは、2 番目のユーザの ソリューション エクスプローラ に表示されても、そのユーザの PBL ディレクトリには追加されません。</p> <p>回避策: 2 番目のユーザは、ソリューションを閉じてから再度開いて GetLatestUser アクションを完了し、すべての更新を入手しなければなりません。</p>

表 19 : PowerBuilder .NET のその他の問題

GR#	解説
616577	<p>FDCC 準拠の Windows XP コンピュータでのリソース アイテムのダブルクリック</p> <p>ソリューション エクスプローラのリソース アイテムをダブルクリックした場合、アイテムのファイル タイプに関連付けられたエディタが開きますが、FDCC 準拠の Windows XP コンピュータでは、その代わりに移動ダイアログが表示されます。これは FDCC 準拠でないコンピュータや、FDCC 準拠で Windows Vista OS を使用しているコンピュータでは発生しません。</p> <p>回避策: 正しいエディタで開かれるようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソリューション エクスプローラでアイテムを右クリック 2. [追加] 選択し、プログラムの追加 ダイアログを表示 3. ステップ 1 で右クリックしたアイテムを開くアプリケーションを選択 4. 必要に応じて、ステップ 3 で選択したプログラムの [表示名] を変更し、[OK] をクリック 5. [ファイルを開くアプリケーションの選択] ダイアログで、ステップ 4 で指定した表示名を選択し、[既定値として設定] をクリックし、[OK] をクリック 6. この手順をソリューション エクスプローラから開きたい全てのリソース アイテムのファイル タイプについて繰り返す
569483	<p>c: ドライブのルート パスで新しいターゲットが表示されない。</p> <p>PowerBuilder .NET では、c: ドライブのルート パスにワークスペースを作成し、ルート パスにターゲットを作成すると、そのターゲットは ソリューション エクスプローラに表示されません。</p>

製品互換性について

PowerBuilder 12.1 は多数のソフトウェアとの互換性テストを行いました。

ソフトウェアの種類または製品	互換性の解説
アプリケーションサーバ	PowerBuilder Classic は、EAServer 5.5 パッチ レベル EBF 13993 と EBF 14146、および EAServer 6.3 を使用してテストしました。
SQL Anywhere	PowerBuilder 12.1 は、SQL Anywhere® 12.0 および SQL Anywhere 12.0 ランタイム エディションを使用してテストしました。
PowerDesigner	PowerBuilder 12.1 は、PowerDesigner® 15.2 を使用してテストしました。
Microsoft .NET Framework	PowerBuilder .NET は、Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack 1 に対応しています。 PowerBuilder Classic は、Microsoft .NET Framework 2.0 以降と互換性があります。ただし、.NET Web フォーム アプリケーションおよび .NET Web サービス コンポーネントの場合、.NET Framework 3.5 に含まれる AJAX Extensions のバージョンをすでにインストール済みでも、AJAX Extensions バージョン 1.0 (build 61025.0) を個別にダウンロードしてインストールする必要があります。
Web ブラウザ	PowerBuilder Web フォーム アプリケーションは、Internet Explorer 6 以降のブラウザで完全にサポートされます。
Java	PowerBuilder Classic は、JDK 1.5 および 1.6 に対応しています。
Ghostscript	データウィンドウを PDF として保存する機能は、AFPL Ghostscript バージョン 8.60 を使用してテストしました。

サードパーティ コンポーネントと配布

PowerBuilder アプリケーションは、PowerBuilder と一緒にインストールされるサードパーティ コンポーネントに一部依存します。

これらのコンポーネントの多くは、PowerBuilder ランタイム パッケージでインストールされません。このうち一部のコンポーネントはアプリケーションと一緒に再配布できますが、その他のコンポーネントはベンダから入手する必要があります。

無償でダウンロードできるコンポーネントについては、DVD の Support ディレクトリおよび Sybase Web サイト

http://www.sybase.com/softwarelicenses/third_party_legal

にある無償ダウンロード規約を参照してください。

Apache ファイル

PowerBuilder に含まれる Apache ファイルをユーザに再配布できます。

PowerBuilder 12.0 に含まれる Apache コードを使用したり再配布したりする場合は、PowerBuilder 12.0 の無償ダウンロード規約にある Apache License 規約に従う必要があります。

ファイルを PDF として保存するためにアプリケーションで XSL-FO を使用するには、Apache Formatting Objects Processor (FOP) のバージョン 0.20.4 が必要です。Apache FOP Web サイト <http://xmlgraphics.apache.org/fop/> を参照してください。

Apache Xerces ファイル `xerces-c_2_6.dll` および `xercesdepdom_2_6.dll` は、XML Web データウィンドウ サポート、データウィンドウとデータストアの XML サポート、PBDOM、および Web サービスの SOAP クライアントに必要です。

Xerces C++ Parser Web サイト <http://xml.apache.org/xerces-c/> を参照してください。

Microsoft ファイル

PowerBuilder の各種機能を使用するには、ランタイム コンピュータに特別な Microsoft ファイルが必要です。

Visual C++ ランタイムと Active Template Library

コアの PowerBuilder ランタイム ファイルを配布する場合は、ユーザのコンピュータまたはサーバに、Microsoft Visual C++ ランタイム ライブラリ `msvcr71.dll` と `msvcp71.dll`、および Microsoft .NET Active Template Library (ATL) モジュール `atl71.dll` が存在することを確認します。

PowerBuilder ランタイム ファイルは、実行時にこれらのファイルに依存するため、PowerBuilder ランタイムを必要とするすべてのアプリケーションとコンポーネントにこれらのファイルが必要です。これらのファイルは、DLL アーカイブ Web サイト <http://dlldump.com> または <http://driverskit.com/> で入手できます。

注意: PowerBuilder ランタイム パッケージで生成した MSI ファイルによりインストールされる一部のファイルは、これらのファイルに依存しています。たとえば、`atl71.dll` は、`pbjvm120.dll` ファイルをレジストりに登録する前にユーザのコンピュータにインストールしておく必要があります。ランタイム パッケージが生成した MSI ファイルを実行する前に、これらのファイルが対象のコンピュータにあることを確認してください。

インクピクチャ ライブラリ

アプリケーションでインクエディット (InkEdit) コントロールおよびインクピクチャ (InkPicture) コントロールを使用する場合は、`Microsoft.Ink`、`Microsoft.Ink.dll`、および `Microsoft.Resources.dll` が必要です。これらのファイルは Microsoft Windows XP Tablet PC Edition の Software Development Kit 1.7 の一部です。この SDK は、Microsoft 社の Web サイト <http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyId=B46D4B83-A821-40BC-AA85-C9EE3D6E9699&displaylang=en> で入手できます。

これらの DLL と .NET Framework 2.0 との間に互換性の問題があることを Microsoft 社は確認しています。この問題に対処するための更新プログラムは、Microsoft 社の Web サイト

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=84BBEFA4-7047-41DF-8583-E3BDBF9D805F&displayLang=ja> で入手できます。

DirectX 9.0c ランタイム

PowerBuilder アプリケーションは、3D グラフ (3D 円、3D 横棒、3D 縦棒、3D 折れ線、および 3D 面) をより洗練された外観で表示するために DirectX 3D 表示を使用できます。DirectX グラフ様式にデータ項目や系列の透明度設定を使用して、データの外観を改善できます。

DirectX 3D 表示は、DirectX 9.0 ランタイムに依存しています。3D グラフのプロパティ ビューにある **[全般]** タブで、**[3D レンダリング]** チェック ボックスを最初にオンにしたときに、PowerBuilder は DirectX インストーラを起動します。インストールしない場合、3D レンダリング プロパティは無視されます。PowerBuilder アプリケーションのエンド ユーザは、DirectX グラフ様式を表示するために、コンピュータに DirectX 9.0c ランタイムもインストールしておく必要があります。DirectX 9.0c ランタイムは、Microsoft 社の Web サイト

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=2da43d38-db71-4c1b-bc6a-9b6652cd92a3&DisplayLang=ja> からダウンロードできます。

従来のグラフィック ドライバがインストールされているコンピュータの場合、dxdiag.exe を実行することで DirectX がサポートされているかどうかを確認できます。このファイルは、通常、Windows¥System32 ディレクトリにインストールされています。dxdiag.exe を実行したときに開く DirectX 診断ツールの **[ディスプレイ]** タブに、Direct3D が有効かどうか示されます。

AJAX エクステンション

PowerBuilder は、Web フォーム アプリケーションで AJAX (Asynchronous JavaScript and XML) 更新機能を使用します。ASP.NET AJAX を使用すれば、ページの個別の領域を非同期にリフレッシュすることでページが更新されます。

PowerBuilder .NET Web フォームおよび .NET Web サービス コンポーネント ターゲットは .NET Framework 3.5 と連動しますが、それらは、.NET Framework 3.5 と一緒にインストールされる AJAX のバージョンを使用しません。これらの種類の .NET ターゲットには、AJAX Extensions バージョン 1.0 (build 61025.0) をインストールする必要があります。

PowerBuilder はデフォルトで AJAX 更新機能を使用するため、AJAX Extensions はすべての開発および配布マシンの Web フォーム アプリケーションに必要です。Microsoft ASP.NET AJAX Extensions バージョン 1.0 は、<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=ca9d90fa-e8c9-42e3-aa19-08e2c027f5d6> からダウンロードしてインストールできます。

Oracle (Sun Microsystems) ファイル

EJB クライアントを使用する場合、JDBC 接続を行う場合、および XSL-FO を使用してオブジェクトやドキュメントを PDF 形式で保存する場合は、Java Runtime Environment (JRE) が必要です。

JRE のサードパーティ条項については、無償ダウンロード規約に関するドキュメントを参照してください。JRE は、Sun Developer Network <http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp> からダウンロードできます。

Web サービスの SOAP クライアントで使用されるソ

フトウェア

PowerBuilder Classic アプリケーションは、Web サービスに接続するために EasySoap を使用できます。PowerBuilder には実行ファイル形式の EasySoap++ ライブラリ (EasySoap120.dll) が含まれており、このライブラリは PBSoapClient120.pbx に動的にリンクされます。

EasySoap++ ライブラリとその使用は、GNU Lesser General Public License (LGPL) の適用範囲です。このライセンスのコピーについては、無償ダウンロード規約に関するドキュメントを参照してください。

また、EasySoap++ ライブラリは、GPL の規定に従ってサードパーティに配布することができます。

EasySoap++ ライブラリの機械可読ソースコードは、DBD の Support¥WSExtn フォルダ内の EasySoap.zip ファイルにあります。さらに、PBSDoapClient120.pbx のオブジェクトコードと Microsoft Visual C++ プロジェクトファイルは、同じディレクトリの soapclient.zip ファイルにあります。

これらのファイルは GPL の規定に基づいて提供されているものであり、EasySoap++ ライブラリを変更してから、変更した EasySoap120.dll を生成するために再リンクすることができます。また、PBSDoapClient120.pbx と変更した EasySoap++ インポートライブラリを再リンクすることもできます。GPL の規定によれば、EasySoap++ ライブラリで変更した定義を使用するために PBSDoapClient120.pbx を再コンパイルできない場合もあります。

PBSDoapClient120.pbx を構築するには、soapclient.zip ファイル内の Readme.txt ファイルにある手順に従います。

マニュアルの変更点

PowerBuilder 12.1 向けにリリースされたマニュアルの修正、および解説をお知らせします。

CR#	解説
572632	ランタイム コントロールの動作の変更 新しい内容: Windows API の動作 : PowerBuilder Classic では、OpenSheet の呼び出しに位置パラメータがある場合、シート ウィンドウは、開かれたときにメニュー項目に追加されます。ユーザは、そのメニューからアクセスしたいシート ウィンドウを選択できます。 PowerBuilder .NET では、フレーム ウィンドウに多数のタブを開

表 21 : PowerBuilder のマニュアルに関する問題

GR#	解説
	いた場合、右側のドロップダウン メニューからシートを選択できます。
584818	<p>SetCultureFormat データウィンドウ メソッド</p> <p>修正内容: 『データウィンドウ リファレンス』マニュアルには、SetCultureFormat の説明がすでに記載されています。このメソッドは、将来使用するために予約されており、PowerBuilder 12.0 ではテストしていません。</p>
605201	<p>データウィンドウ オブジェクトの動作の変更</p> <p>新しい内容: PrintPage の動作: PowerBuilder Classic では、戻り値が 1 に設定されたとき、そのページは印刷されません。PowerBuilder .NET では、戻り値が 1 に設定された場合に、印刷されます。</p>
611075	<p>SetPointer システム関数</p> <p>修正内容: 『PowerScript リファレンス』マニュアルには、sting 型引数を持つ SetPointer 構文の説明がすでに記載されています。CUR ファイルは使用できますが、EMF ファイルは使用できません。</p>
616377	<p>コーディングの制限</p> <p>新しい内容: PowerBuilder コンパイラでは、兄弟オブジェクト クラスのような、キャストしているオブジェクトの先祖ではないクラスへ、オブジェクトをキャストできます。しかしながら、これは良いコーディングとは言えず、.NET ターゲットでは実装できません。</p>
623953	<p>GraphType データウィンドウ オブジェクト プロパティ</p> <p>新しい内容: 『新機能』マニュアルには、WPF グラフの種類に対応する数値が記載されていません。この数値は、Cylinder = 18、CylinderBar = 19、Bubble = 20、Radar = 21、Cone = 22、Donut = 23、および Donut3D = 24 です。</p>

表 21 : PowerBuilder のマニュアルに関する問題

GR#	解説
624126	<p>ToolbarAlignment ウィンドウ プロパティ</p> <p>新しい内容: 『新機能』 マニュアルには、ToolbarAlignment プロパティのサポートされない列挙値として Floating! は記載されていません。この値を残した状態で移行されたアプリケーションでは、ツールバーはウィンドウ上部に配置されます。</p>
624234	<p>Application Server Plug-in</p> <p>修正内容: 『アプリケーション テクニック』 マニュアルと 『ユーザーズ ガイド』 マニュアルには、Application Server Plug-in に関する情報が記載されていますが、このプラグインのサポートは PowerBuilder 12.0 では終了しています。</p>
635140	<p>サポートしていないプロパティ、イベント及び関数</p> <p>更新内容: PowerBuilder 12.1 では、リッチテキスト エディットの DisplayOnly プロパティがサポートされています。</p>
639448	<p>サポートしていないプロパティ、イベント及び関数</p> <p>新しい内容: カスタム コントロールの Border プロパティは使用できません。カスタムコントロールを含めた複数のオブジェクトが選択されている場合、Border プロパティをサポートするオブジェクトに対して Border プロパティを設定することができます。その設定は、Border プロパティをサポートしないオブジェクトに対しては無視されます。</p>
639834	<p>システム要件</p> <p>『インストールガイド - PowerBuilder Enterprise 12.1』のシステム要件について、Windows Server 2003 のサポートの記載が抜けています。また、Windows Server 2008 のサポート レベルの記載がありません。</p> <p>正しい内容: PowerBuilder 12.0 および InfoMaker 12.0 は共に、</p>

表 21 : PowerBuilder のマニュアルに関する問題

CR#	解説
	Windows Server 2003 SP2 をフルサポートします。PowerBuilder 12.0 と InfoMaker 12.0 は、Windows Server 2008 SP2 のランタイム サポートのみ行います。

移行について

PowerBuilder アプリケーションは、どのバージョンの PowerBuilder からでも PowerBuilder Classic に直接移行できます。PowerBuilder .NET から PowerBuilder Classic にアプリケーションを移行することはできません。また、PowerBuilder Classic から以前のバージョンの PowerBuilder に移行することもできません。

PowerBuilder .NET への移行

PowerBuilder .NET の WPF ウィンドウ アプリケーション ウィザードには、標準の PowerBuilder Classic クライアント/サーバまたは Windows フォーム ターゲットを WPF ウィンドウ アプリケーション ターゲットに変換するためのオプションがあります。PowerBuilder .NET の .NET アセンブリ ウィザードには、PowerBuilder Classic .NET アセンブリ ターゲットを変換するオプションがあります。

これらの変換オプションを選択し、**[完了]** をクリックすると、選択した PowerBuilder Classic ターゲットはウィザードによって自動的に移行されます。ただし、依然として、一部のアプリケーションは変換後に手動でリファクタリングする必要があります。

次の表は、アプリケーションを PowerBuilder Classic から移行した後に、特別な注意が必要な機能を一覧にしたものです。表のトピックの参照先は、『*PowerBuilder .NET 新機能ガイド*』です。

機能	移行の影響
アクセラレータ文字	アンパサンド (&) が下線 (_) に変わります。「コントロール ラベルのアクセラレータ文字」を参照してください。
条件付き (プリプロセッサ) コード ブロック	PowerBuilder .NET で無効なコードブロックは、維持はされますが、無視されます。「PowerBuilder .NET ターゲットでの条件付きコンパイル」を参照してください。
コントロール ハンドル	複数のウィンドウにネストされたコントロールには自身のハンドルがありません。「PowerBuilder .NET で修正された機能およびサポートされない機能」を参照してください。
識別子のハイフン	ハイフンはターゲット ウィザードで選択可能な文字列と置換されます。「コーディングの制約事項」を参照してください。
イベント シーケンス	手動のリファクタリングが必要な場合があります。 「PowerBuilder .NET で修正された機能およびサポートされない機能」を参照してください。
GroupBox コントロール	グループボックス内のコントロールは、グループボックスのコンテナではなく、グループボックスに属します。「仕様上の相違点」を参照してください。
大きなアプリケーションの移行	OutOfMemory エラーを引き起こす場合があります。3G スイッチをオンにして、このエラーを回避してください。「大規模アプリケーション向けメモリ チューニング」を参照してください。
メニューとツールバーのスタイル	PowerBuilder Classic のスタイルが維持されます。 PowerBuilder 11.0 より前のアプリケーションから移行する場合、メニューおよびツールバーは従来のスタイルを使用します。「ツールバースタイルの選択」および「PowerBuilder .NET のメニュースタイル」を参照してください。
非 TrueType フォント	デザイン時には表示されますが、実行時には置換されます。 「PowerBuilder .NET で修正された機能およびサポートされない機能」を参照してください。

機能	移行の影響
パイプライン オブジェクトと クエリ オブジ ェクト	インポートされますが実行時には無視されます。「PowerBuilder.NET で修正された機能およびサポートされない機能」を参照してください。
リソース ファ イル	ウィザードで選択したリソース ディレクトリは、元のターゲットへの 相対パスに基づいて、新しいターゲット パスに相対的にコピーされま す。「リソースのターゲットへの追加」および「プロジェクト ペイン タのユーザ インタフェース」を参照してください。
スキン	デフォルトのスキンは移行されたアプリケーションに依存します。「ア プリケーションとコントロールのスキン選択」を参照してください。

WPF アプリケーションには、識別子 にハイフンが含まれるアプリケーションお
よび右から左の形式のアプリケーションに関する移行オプションがあります。
移行オプションを選択する前に **【完了】** をクリックすると、ウィザードはこれ
らのオプションのデフォルトの設定を使用してアプリケーションを移行します。

PowerBuilder Classic への移行

PowerBuilder のすべての旧バージョンから、アプリケーションを
PowerBuilder Classic 12.1 に移行できます。

移行する前に、ファイルをバックアップし、マイグレーション アシスタントを
使用して廃止されたコードを識別してください。現在のバージョンの
PowerBuilder を使用して構築するアプリケーションは、現在のバージョンの
PowerBuilder ランタイム DLL と共に配布する必要があります。

注意: Sybase Web サイト <http://www.sybase.com/detail?id=1032777> のテクニカル ドキ
ュメント「Migrating PowerBuilder Applications」（英語）には、アプリケーションの変
換に影響を与える可能性のある PowerBuilder のバージョン 6.5 から最新バージョンま
での PowerBuilder の変更情報が記載されています。

- [以前のバージョンの PowerBuilder からの .NET ターゲットの移行](#)
従来の Web フォーム アプリケーションおよび .NET Web サービス コン

- **EAServer ターゲットの移行**

EAServer ターゲットを、以前のバージョンの PowerBuilder から PowerBuilder Classic に移行する場合は、追加で考慮を必要とする事項もあります。PowerBuilder .NET は、EAServer ターゲットをサポートしません。

- **プロキシの変数名としてのシステム タイプ**

バージョン 10.5 以降の PowerBuilder では、システム タイプは Web サービス プロキシの変数名として使用できません。

- **Microsoft SQL Server での OLE DB のパフォーマンス**

バージョン 10.5.2 以降の PowerBuilder では、Microsoft SQL Server データベースで OLE DB データベース インタフェースを使用してデータ ウィンドウにデータを取り出したり、SELECT 文で埋め込み SQL カーソルを使用したりすると、複数コマンドの実行をサポートするためにサーバ側のカーソルが使用されます。

- **OpenTab の動作の変更**

PowerBuilder 10.2.1 Build 9716、PowerBuilder 10.5.1 Build 6505、および PowerBuilder 11.0 Build 5021 で、Visible プロパティが false に設定されたタブに SelectedTab プロパティが実行時に適用されると変則的な動作をする現象を修正するための変更が行われました。

- **ImportFile のサイズ制限**

アプリケーションで ImportFile メソッドを使用して非常に大きなテキスト ファイルをデータウィンドウまたはデータストアにインポートすると、ImportFile はエラー コード -15 を返します。

以前のバージョンの PowerBuilder からの .NET ターゲッ

トの移行

従来の Web フォーム アプリケーションおよび .NET Web サービス コンポーネントを移行する場合、開発コンピュータと配布コンピュータで、サポート ファイルの削除またはインストールが必要になる場合があります。

.NET プロジェクトを以前のバージョンの PowerBuilder から配布した場合、PowerBuilder Classic から再配布する前に、以下の手順を確認または完了してください。

- .NET Web フォームおよび .NET Web サービス ターゲットでは、開発コンピュータと運用サーバに AJAX Extensions をインストールします。

Microsoft AJAX Extensions バージョン 1.0 は、Microsoft 社の Web サイト

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=ca9d90fa-e8c9-42e3-aa19-08e2c027f5d6> からダウンロードしてインストールできます。

- .NET Web フォームおよび .NET Windows フォーム プロジェクトでは、PowerBuilder Classic からアプリケーションを最初に再配布する前に、プロジェクトの再構築タイプで「フル」を選択します。
- .NET Web フォームおよび .NET Web サービス ターゲットでは、開発コンピュータおよび運用サーバ上のアプリケーションまたはコンポーネントの ASP.NET 一時ファイルを削除します。

この一時ファイルは、

C:\¥WINDOWS¥Microsoft.NET¥Framework¥*version*¥Temporary ASP.NET Files¥*projectName* ディレクトリにあります。ここで、*version* は通常 v2.0.50727、*projectName* はプロジェクトの Web アプリケーション名またはその Web サービス仮想ディレクトリ名です。

- すべての .NET ターゲットで、以前のバージョンの PowerBuilder ランタイム ファイル（システム アセンブリや win32 DLL）をすべての配布コンピュータまたはサーバからアンインストールした後、ランタイム パ

注意: .NET Windows フォーム ターゲットを PowerBuilder .NET の WPF ターゲットに変換できます。従来の .NET Windows フォーム ターゲットは、WPF ターゲットに変換する前に、PowerBuilder Classic に移行することをお勧めします。

PowerBuilder Classic の .NET アセンブリ ターゲットは、PowerBuilder .NET の .NET アセンブリ ターゲットに直接変換できません。

EAServer ターゲットの移行

EAServer ターゲットを、以前のバージョンの PowerBuilder から PowerBuilder Classic に移行する場合は、追加で考慮を必要とする場合もあります。PowerBuilder .NET は、EAServer ターゲットをサポートしません。

EAServer 6.0.1 以降へのコンポーネントの移行

EAServer 6.0.1 で実行している PowerBuilder コンポーネントからのコンポーネント間呼び出しには、呼び出されたすべてのコンポーネントでプロキシが必要です。以前のバージョンの EAServer では、PowerBuilder VM がコンポーネントのメソッドの名前と一致するメソッド名を使用して動的にコンポーネントのプロキシを作成するので、PowerBuilder コンポーネントが同じサーバで実行している別の PowerBuilder コンポーネントをプロキシを使用せずに呼び出せました。

EAServer 6.0.1 以降では、PowerBuilder コンポーネントは EJB としてラップされ、セキュリティの特別な層が提供されて、PowerBuilder VM がコンポーネントのメソッド名と一致する名前を持つプロキシを動的に生成しないようになりました。このため、コンポーネント間の呼び出しで起動されるすべてのコンポーネントに対してプロキシ オブジェクトを作成する必要があります。プロキシ オブジェクトがないと、TransactionServer オブジェクトは、呼び出そうとしているコンポーネントの正しいメソッド名を取得することができません。

.NET ターゲットから EAServer コンポーネントへのアクセス

PowerBuilder は、開発コンピュータのグローバル アセンブリ キャッシュ (GAC: Global Assembly Cache) に EAServer 6.2 の DLL、`com.sybase.iiop.net.dll` および `com.sybase.ejb.net.dll` をインストールします。これらの DLL は、.NET ターゲットから EAServer コンポーネントにアクセスするアプリケーションのランタイム コンピュータに必要です。これらの DLL を配布コンピュータの GAC に配置するためにランタイム パッケージを使用できます。

注意: PowerBuilder セットアップ プログラムによってインストールされる DLL はテスト済みで、EAServer 6.3 と互換性があります。ただし、バージョン 6.2 以外の EAServer を使用している場合は、アプリケーションを配布するすべてのコンピュータの GAC に EAServer/Lib ディレクトリから DLL をコピーすることをお勧めします。その後でランタイム パッケージを実行または再実行した場合は、ランタイム パッケージが DLL を上書きするので、これらの DLL を GAC に再度コピーする必要があります。

EAServer 6.x コンポーネントの EJB クライアント プロキシの作成

EAServer 6.x で実行している EJB の EJB クライアント アプリケーションを構築する場合、EJB クライアント プロキシの作成時に追加の手順を実行する必要があります。

1. `packagename` ディレクトリをサーバ上の `%DJC_HOME%\deploy\ejbjars\` ディレクトリからクライアント コンピュータにコピーします。ここで、`packagename` は、使用する EJB を含むパッケージです。
2. EJB クライアント プロキシ プロジェクト ペインタから EJB コンポーネントの選択 ダイアログ ボックスを開き、コピーしたディレクトリをクラスパスに追加します。
3. プロキシを生成します。

EAServer 6.x EJB コンポーネントのクライアント アプリケーションの作成

EAServer 6.x で実行している EJB の EJB クライアント アプリケーションを構築する場合、クライアントの作成時に追加の手順を実行する必要があります。

1. eas-server-15.jar ファイル (JDK 1.6.x を使用している場合は eas-server-16.jar) を %DJC_HOME%\lib ディレクトリからクライアント コンピュータにコピーし、その完全なパスをクライアントの CLASSPATH に含めます。
2. スタブ ファイルを %DJC_HOME%\genfiles\java\classes\ ディレクトリからクライアント コンピュータにコピーし、このパスをクライアントの CLASSPATH に含めます。
3. packagename ディレクトリをサーバ上の %DJC_HOME%\deploy\ejbjars\ ディレクトリからクライアント コンピュータにコピーします。ここで、packagename は、使用する EJB を含むパッケージです。そして、このパスをクライアントの CLASSPATH に含めます。

これらのファイルおよびディレクトリを EAServer6 というクライアント上のディレクトリにコピーし、datamapping という名前のパッケージ内の EJB を使用する場合、クライアントの CLASSPATH 設定は次のようになります。

```
Classpath=D: ¥EAServer6¥lib¥eas-server-15.jar;D: ¥EAServer6¥genfiles¥java¥classes;D: ¥EAServer6¥deploy¥ejbjars¥datamapping
```

プロキシの変数名としてのシステム タイプ

バージョン 10.5 以降の PowerBuilder では、システム タイプは Web サービス プロキシの変数名として使用できません。

PowerBuilder システム タイプが変数名として使用される場合、Web サービス プロキシ ウィザードは接頭辞 ws_ を適用して変数の名前を変更します。Web サービス アプリケーションを PowerBuilder 10.2 以前のバージョンから移行し、PowerBuilder 10.5 以降で Web サービス プロキシを再生成する場合、変数名の変更を反映するようにコードを変更する必要があります。

PowerBuilder システム タイプには、PowerBuilder オブジェクト ブラウザの [システム] タブ ページの一覧にあるオブジェクトとコントロールだけでなく、そのブラウザの [カタログ データ型] タブ ページの一覧にある、区域、ボタン、エンコードやロケーション、および曜日なども含まれます。たとえば、PowerBuilder カスタム クラス ユーザ オブジェクトから Web サービスを構

築し、その関数のいずれかに *location* という名前の文字列引数がある場合、その Web サービスのために生成されたプロキシで、その引数は *ws_location* に変更されます。

Microsoft SQL Server での OLE DB のパフォーマンス

バージョン 10.5.2 以降の PowerBuilder では、Microsoft SQL Server データベースで OLE DB データベース インタフェースを使用してデータウィンドウにデータを取得したり、SELECT 文で埋め込み SQL カーソルを使用したりすると、複数コマンドの実行をサポートするためにサーバ側のカーソルが使用されます。

これによりパフォーマンスが低下する場合は、データベース パラメータ Block のサイズを 500 以上に増やすか、PBODB 初期設定ファイルの [Microsoft SQL Server] セクションに次の行を追加してサーバ側のカーソルをオフにします。

```
ServerCursor = 'NO'
```

OpenTab の動作の変更

PowerBuilder 10.2.1 Build 9716、PowerBuilder 10.5.1 Build 6505、および PowerBuilder 11.0 Build 5021 で、Visible プロパティが false に設定されているタブに SelectedTab プロパティがランタイムとして適用されると異常動作をする現象を修正するための変更が行われました。

この変更の結果、OpenTab 関数と OpenTabWithParm 関数の動作が変更されました。以前のバージョンでは、ユーザ オブジェクトをタブ ページとして開くために OpenTab 関数または OpenTabWithParm 関数を呼び出すと、ユーザ オブジェクトの Visible プロパティが false に設定されていてもタブ ページが表示されました。現在のバージョンでは、タブ ページを表示するにはユーザ オブジェクトの Visible プロパティを true に設定しなければなりません。

ImportFile のサイズ制限

アプリケーションで ImportFile メソッドを使用して非常に大きなテキスト ファイルをデータウィンドウまたはデータストアにインポートすると、ImportFile はエラー コード -15 を返します。

バージョン 10.0 以降の PowerBuilder では Unicode を利用できます。以前の ANSI バージョンの PowerBuilder は大きなテキスト ファイルをインポートできませんでした。

注意: 以前のバージョンのリリース ノートには、大きなファイルのサイズ制限が約 839,000 行と記載されていましたが、サイズ制限はファイル内のカラム数、および行数に依存します。

ヘルプおよびその他の情報の入手

この製品リリースの詳細については、製品 DVD およびオンライン ヘルプを参照してください。

- 製品 DVD（またはダウンロード） - PDF 形式の製品マニュアルが含まれます。
- NDソフトウェア Web サイト <http://www.powerbuilder.jp/> - 標準の Web ブラウザでアクセスすることができるオンライン版のマニュアルがあります。このサイトでは、PDF 形式でマニュアルを見ることができます。
- Sybase 製品マニュアル Web サイト（英語）
<http://sybooks.sybase.com/> には、Sybase の製品マニュアルのほか、EBF/メンテナンス、技術文書などへのリンクも含んでいます。
- 製品のオンライン ヘルプ（使用可能な場合）

PDF ドキュメントを読んだり、印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。Adobe Web サイト <http://www.adobe.com/jp/> から無償でダウンロードすることができます。

注意：製品リリース後に追加された重大な製品情報またはドキュメント情報を含む最新のリリース ノートをNDソフトウェア Web サイトで入手できる場合があります。

テクニカル サポート

『サポート ハンドブック』を参照してください。

EBFと修正された障害内容のダウンロード

PowerBuilder のウェブサイトから EBF と修正された障害内容が取得できます。

1. <http://www.powerbuilder.jp/> をご参照ください。
2. メニュー バーの [ダウンロード] を選択します。
PowerBuilder/InfoMaker の項目から該当するバージョンおよびエディションを選択します。
3. ユーザ情報を記入し、[確認する] を押します。

4. EBF のダウンロードには [ファイルの名前] をクリックしてください。

修正された障害内容のダウンロードには、対応内容の [対応内容の詳細はこちら>>] をクリックしてください。

Sybase 製品およびコンポーネントの認定

認定レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを証明します。

認定に関する最新情報について:

- パートナー製品の認定については
http://www.sybase.com/detail_list?id=9784 を参照してください。
- プラットフォームの認定については、
<http://certification.sybase.com/ucr/search.do> を参照してください。

MySybase プロファイルの作成

MySybase は、Sybase Web ページを自分用にカスタマイズできる無料のサービスです。

1. <https://login.sybase.com/login/userLogin.do?refer=http%3A//www.sybase.com/mysybase> にアクセスします。
2. [Register Now!] をクリックします。